

ジャンベ太鼓の 心地よい響きに 引かれて...

夢 追

のこよし金物・工芸家
久保田良夫さん(75)

い 人

久保田さんはこれまで木、石、紙、鉄など、幅広い材料を使い、さまざまな工芸品を生み出してきた。新しいものに挑戦するのが好きだ。ユニークな発想の作品で二紀会入賞の経歴もある。面白いものに、明治時代の太福帳の和紙よりから作った帯、室町時代まで盛んに使われていた『木目打ち槍かん』の製作などがある。

そして、今取り組んでいるのはアフリカの民族楽器ジャンベ太鼓の製作である。

ジャンベ太鼓の魅力は何ですか。楽しいことですよ。いろんな作品を作りますが、それらがじかに言葉を語ったり、音を奏でることはありません。ジャンベ太鼓の場合、敲き方、打つ場所によって異なる音色や響きを楽しめるのです。しかも、それが演奏に用いられ、人々が聞き入っているのを見るのは喜びですね。

ところで、なぜアフリカの民族楽器・ジャンベ太鼓を作ろうと思ったのでしょうか。



ジャンベ太鼓の
音色を聴いたとき、
「これだ!」と思いました

友人の陶芸家、末安さん宅に行ったとき、ジャンベ太鼓を見せてもらいました。その音色を聴いたとき引かれました。「これだ!」と思いましたね。そして、魅力的な音を保ちながらも、もつと軽く作ろうと思ったんです。

この太鼓は首からつり下げたり、膝の間に挟んだりして、地面から離して演奏します。が、非常に重いのです。いい音を出すため極のような堅い木をくりぬいて作るからです。



木目打ち槍かん



7月29日
商店街の夜市で...

そうですね。どんな点苦
さされましたか。

木をくりぬくのが一番難しい
ですね。どういう風にといわれ
てもなかなか言葉では表現し
にくいですが…。撃ただけでも、
市販のものをそのまま使えま
せん。先を曲げたりして調整
しなければなりません。

また、表面を塗料で固める
工夫をしています。重量を軽
くするために桐のような柔ら
かい木を使いますが、いい音を
出すには太鼓の中を堅くしな
ければならないからです。でも、
家具の街大川では多様な塗料
が手に入りますから、ふさわ
しいものを見つけることができ
ました。

商店街の夜市で、ジャンベ
太鼓のアフリカンリズムが披
露されたようですね。

はい、7月29日でした。末安
さんたちのバンドに出ているだ
いて、3カ所で演奏することが
できました。反響も良かったで
すよ。ええ、人々の反響です。
2拍子、3拍子を基本にバリエ
ーシヨに富んだリズムを堪能
できたのではないですか。

8月27日には城内小学校で、
10月には町内会総会の際に演
奏を行うことになっています。
楽しみです。



今後の目標は、

本場の楽器の音に負けない
ものができていると思います。
でも、正直に言うとうち、まだ改善
する部分もあると思います。
何百年もの歴史のある楽器で
すから。柔らかい音、堅い音、音
色の美しさなどの面でもっと
研究をする必要があります。

ジャンベ太鼓を作りたいと言
う地元の工芸家仲間もいます。
身に付けてきた技術を喜んで
提供したいと思っています。そ
の人が習熟して独自のジャンベ
太鼓を作れるようになれば、
お互いに良い点を学び合えま
すから。